

令和7年度 学校評価報告書



越前町立宮崎小学校

目 次

	ページ
◆スクールプラン	．．．．． 1
◆評価の方法	．．．．． 2
◆年間自己評価書 総括表	．．．．． 3
◆具体的項目別評価表	
主体的な学びづくり	．．．．． 4～5
創造的な学びづくり	．．．．． 6～7
成長を支える環境づくり	．．．．． 8
◆基礎資料(アンケートデータ)	．．．．． 9
◆学校関係者評価書	．．．．． 10～11

R7 宮崎小学校 スクールプラン



〈越前町の学校教育目標〉
 すべての子どもたちの可能性を引き出す
 個別最適な学びと協働的な学びの実現
 〈越前町の学校教育方針〉
 個性と協働が共存する学校教育
 ～個性を発揮し多様な人々と協働しながら課題に取り組む～



学校教育目標

自ら学ぶ 共につくる

〈合い言葉〉
 すすんで学ぶ
 みんなとつくる

魅力ある学校・学校のWell-being に向かう指標

- ① 「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ② 「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ③ 「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ④ 「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上
- ⑤ 「仕事に喜びや楽しさを感じている？」に「そう感じている」と答える教職員が60%以上
- ⑥ 「家庭・地域とつながっている？」に「当てはまる」と答える教職員が60%以上

〈 学校経営の重点目標 〉

1 主体的な学びづくり

- 主体的・対話的で深い学びをめざし「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実
 - 1 各教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり
 - 2 学習プロセスの充実
 - 3 情報活用能力の育成におけるICTの有効活用
- カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善
 - 4 探究的に学ぶふるさと学習のカリキュラム開発
 - 5 児童どうしのかかわりや学び合いが生まれるカリキュラムデザイン

自立した
 学び手を
 育てる

2 創造的な学びづくり

- 児童が主体となる学校生活
 - 1 主体的に考え、自ら判断・決定し、すすんで活動する
 - 2 伝え合って理解し合い、多様性を認め合う
 - 3 試行錯誤しながら、共に学ぶ過程を大切に
- 健やかな心と体づくり
 - 4 やさしさでつくる安全・安心な学校
 - 5 たてわり班活動や異学年交流学习でのかかわりづくり
 - 6 自らつくる健康な体、健康な生活

3 成長を支える環境づくり

○共に歩む教職員集団

- 1 心身ともに健康で、主体的に学び協働する
(時間外勤務45時間以下、年休取得11日以上)
- 2 チーム担任制や組織的な支援で、安心して働ける「チーム宮小」
- 3 新たな発想とチャレンジで、働くことを楽しむ

○家庭・地域との連携・協働

- 1 願いや思い・課題を共有し、評価・改善する
- 2 地域の資源を生かした学びを共につくる
- 3 15年間の学びを見通した保小中連携

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 〈教職員の願い〉 | 創造性や主体性を伸ばし、児童にゆだねる場面を増やしたい |
| 〈児童の願い〉 | やさしい心で楽しい学校にしたい |
| 〈保護者の願い〉 | 自立心を身につけてほしい
毎日楽しく学校に通ってほしい |
| 〈地域の願い〉 | ふるさとの環境を生かして学び、ふるさとのよさに気づいてほしい |
| 〈保護者・地域の願い〉 | 働き方改革を進めて、教育の質を高めてほしい |

評価の方法

評価の方法について

- ① 本年度目標の達成状況については、児童対象にアンケートをとる。
- ② 具体的方策の取り組み状況については、教職員対象にアンケートをとる。
- ③ 上記①②の結果と児童の様子を総合的に判断し総合評価とする。
※アンケートは、1(肯定的)、2(おおむね肯定的)、3(やや否定的)、4(否定的)の4段階で答える。

評価基準について

・総合評価

	A	B	C
目標の達成状況	目標を達成できている	目標は達成できていないが、達成に近い	目標を達成できず、改善の余地が大きい

・児童アンケート

	A	B	C
目標の達成状況	数値目標を達成できている	数値目標は達成できていないが、達成に近い	数値目標を達成できず、改善の余地が大きい

・教職員アンケート

	A	B	C
目標の達成状況 (めやすとする肯定的回答 (1と2の合計)の割合)	目標を十分達成できている (90%以上)	目標をおおむね達成できている (70%以上90%未満)	達成できていない (70%未満)

評価の時期と改善について

- ・本年度の取り組みの評価として、2学期末に児童・職員に対してアンケート調査を実施し、その結果や児童の様子をふまえ、3学期及び次年度に向けての改善策を立てる。

令和7年度 年間自己評価 総括表

中期重点事項	具体的項目	本年度目標	具体的方策	総合評価
主体的な学びづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「力個別主体的に最も適した学習メニュー」で深い協働的学びによる学びの教育課程の改善に充実 	<p>①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。</p> <p>②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。</p>	<p>1. 各教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり ・教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりをおこなう。</p> <p>2. 学習プロセスの充実 ・子どもと共に創り上げる課題設定や単元づくりをおこなう。 ・授業や単元全体を通して、学びを確かめたり深めたりする振り返りの時間を設ける。</p> <p>3. 情報活用能力の育成におけるICTの有効活用 ・教科の特性や目的に応じ、育てたい資質・能力が明確なICT活用をおこなう。</p> <p>4. 探究的に学ぶふろさと学習のカリキュラム開発 ・「つきたい力（資質・能力）」を明確にして各教科領域等をつなぎ、ふろさについて探究的に学ぶカリキュラムデザインをおこなう。</p> <p>5. 児童どうしのかかわりや学び合いが生まれるカリキュラムデザイン ・異学年で学び合ったり、学習したことを他学年に伝えたりする機会を設け、学びを広げる。</p>	A
創造的な学びづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的な心と体づくりの学校生活 	<p>③「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。</p> <p>④「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。</p>	<p>1. 主体的に考え、自ら判断・決定し、すすんで活動する ・さまざまな活動の中で、自己決定の機会を設定し、PDCAサイクルを活用できる工夫をおこなう。</p> <p>2. 伝え合って理解し、多様性を認め合う ・学校行事や人権教育、ポジティブ教育、ピア・サポート活動を通して、友達や他学年とのよりよい関係づくりをおこなう。</p> <p>3. 試行錯誤しながら、共に学ぶ過程を大切に ・仲間と協働しながら目標に向かう児童の学びの姿やその過程を積極的に評価する。</p> <p>4. やさしさでつくる安全・安心な学校 ・安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれらを解決しようとする問題提起できる機会をつくる。 ・「チーム担任制」を生かし、多くの教職員の目で子どもたちを見る。</p> <p>5. たてわり班活動や異学年交流学習でのかかわりづくり ・行事、学習活動に縦割り班を生かし、異学年交流、縦のつながりを深められる機会を設ける。 ・定期的に「なかよしタイム」をおこない、縦のつながりを深められるようにする。</p> <p>6. 自らつくる健康な体、健康な生活 ・家庭と連携し、児童自らが自己の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなう。</p>	A
成長を支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域と連携した協働 	<p>⑤「仕事に喜びや楽しさを感じている？」に「そう感じている」と答える教職員を60%以上にする。</p> <p>⑥「家庭・地域とつながっている？」に「当てはまる」と答える教職員を60%以上にする。</p>	<p>1. 心身ともに健康で、主体的に学び協働する ・時間外勤務45時間以下、年休取得11日以上となるよう、自分で働き方を調整する。 ・目標を決めて主体的に研究や業務に取り組み、実践の経過や結果を共有することにより、学びを深める。</p> <p>2. チーム担任制や組織的な支援で、安心して働ける「チーム宮小」 ・チーム学年で助け合い、学び合う。 ・情報を共有し、問題には組織的に対応する。</p> <p>3. 新たな発想とチャレンジで、働くことを楽しむ ・前例にとらわれず、主体的に目標を設定して実践する。</p> <p>4. 願いや思い・課題を共有し、評価・改善する ・家庭・地域の思いや課題を把握した上で計画・実践し、評価・改善する。</p> <p>5. 地域の資源を生かした学びを共につくる ・地域の資源を生かした授業を共に計画・実践することで、ふろさと学習のカリキュラムを充実させる。</p> <p>6. 15年間の学びを見通した保小中連携 ・15年間の成長を念頭に置き、保小・小中の円滑な接続と連携に努める。</p>	A

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	主体的な学びづくり	総合 評価	A
	主体的・対話的で深い学びを目指し、 「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実 カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善		
重点項目 について	主体的・対話的で深い学びを実現するためには、日々の授業がいかにか充実したものになっているかが重要だと考える。学習において設定されているゴールに向かい、一人ひとりに合った学びの保証や、仲間と語り合いながら新たな視点に気づき、思考を深める機会を大切にしたい。また、前例にならった授業や単元づくりを行うのではなく、目の前の児童に付けたい資質・能力を授業者が見極め、新しいカリキュラムデザインに取り組んでいく。		
目標指標 の 達成状況 (児童アンケート)	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【69%】	評価	A
	②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【80%】		A
	③「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【64%】		A
	④「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【68%】		A
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. 各教科の見方・考え方を働かせる授業づくり	評価	
	・教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりをおこなうことができたか。 →【肯定的回答90%】		B
	2. 学習プロセスの充実		
	・子どもと共に創り上げる課題設定や単元づくりをおこなうことができたか。 →【肯定的回答100%】		A
	・授業や単元全体を通して、学びを確かめたり深めたりする振り返りの時間を設けることができたか。 →【肯定的回答90%】		A
	3. 情報活用能力の育成におけるICTの有効活用		
	・教科の特性や目的に応じ、育てたい資質・能力が明確なICT活用をおこなうことができたか。 →【肯定的回答90%】		A
	4. 探究的に学ぶふるさと学習のカリキュラム開発		
・「つきたい力（資質・能力）」を明確にして各教科領域等をつなぎ、ふるさとについて探究的に学ぶカリキュラムデザインをおこなうことができたか。 →【肯定的回答 100%】	A		
5. 児童どうしのかかわりや学び合いが生まれるカリキュラムデザイン			
・異学年で学び合ったり、学習したことを他学年に伝えたりする機会を設け、学びを広げることができたか。 →【肯定的回答100%】	A		
総括	<p>授業づくりでは、教員が各教科の特性やそれぞれの単元で身に付けるべき資質・能力を意識して取り組むことができた。教材研究の段階から何を大事にすべきかを念頭に置き、日々の授業に取り組んだ成果が、児童アンケート③④の目標値達成につながったと考える。</p> <p>本格始動して2年目となるふるさと学習では、「探究的な学び」を意識し進めることができた。その際に、児童の思いや考えをできる限り具現化し、地域の方々と共に学びを創り上げる土台が整ってきた。また、今年度は小中連携の柱としてふるさと学習を設定し、情報共有を行ったことで、9年間を通した学びについて考えることができた。</p> <p>ICTの活用では、年度途中に導入されたipadを積極的に活用した。校内研修で互いの実践を紹介し合ったり、校外で学んだことを共有したりする機会を設けることで、教員が一体となってICTの有効活用について考え、実践することができた。</p>		
改善策	<p>児童アンケート③④では、目標値は達成したものの、否定的な回答をした児童が一定数いる。教員からの指導だけでなく、目的を明確にした児童同士の学び合いの時間も大切にしていこうと、全体の理解を深めていく。</p> <p>ふるさと学習では、地域との連携が難しい学年も見られた。学年の実態に合わせ、更なる地域との連携や、ポイントを絞った探究的な学びについて引き続き考えていく必要がある。</p> <p>ICTの活用では、「情報活用能力の向上」や「育てるべき教科の資質・能力」を意識した「有効」な活用について今後も引き続き検討していく余地がある。タブレットを使うことで、従来の方法と比較してどのような利点があるのかという視点も大切にする。</p>		

目標を達成するための具体的方策実践例

1. 各教科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり

今年度は、「主体的に考え、表現し、共に学ぶ授業づくり～学びが深まるカリキュラムデザインを通して～」という研究主題のもとに、授業研究や校内研究会を行った。

まず、全体の主題をもとに、個々の教員が一年間を通して取りむ研究の柱を決めた。自分が行う日々の授業で何を大切にしているのかを明確にし、実践をまとめる「研究のまとめ」を作成した。経験や立場が異なる集団だからこそ、自分に合った授業実践を行い、それらを共有していくことで、授業力向上に努めた。指導主事訪問の公開授業では、指導案作成の段階を特に重要視した。授業者が、実施する教科の「見方・考え方」を働かせることをしっかりと捉え、児童の具体的な姿をイメージしながら指導案を作成した。授業者だけでなく、共に検討する側にとっても学びを深める機会となった。



後期指導主事訪問 6年外国語

2. 学習プロセスの充実

4. 探究的に学ぶふるさと学習のカリキュラム開発

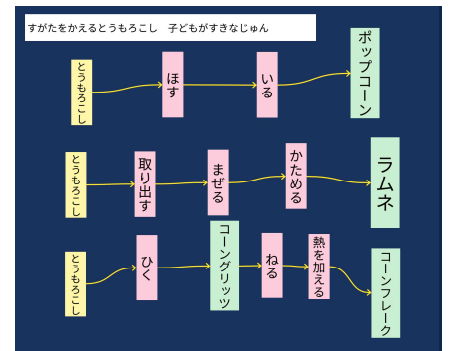
ふるさと学習2年目となった今年度は、昨年度からのステップアップや、より探究的に学ぶことに重点を置いた。まず、年度初めに授業者が地域コーディネーターと打ち合わせを行うことで、児童に身に付けさせたい力や、地域の方の思いを共有し、カリキュラムを共同で創り上げていった。また、課題設定や実際の活動の部分を学年の実態に応じて児童に委ねた。学びのゴールに向かう過程（プロセス）を児童、授業者、地域の方が一体となって進めることでより充実した学びにつなげることができた。



5年 有機米農家 井上さんと稲刈り

3. 情報活用能力の育成における ICT の有効活用

ICTの活用では、年度途中に導入された iPad を積極的に活用した。校内研修で互いの実践を紹介し合ったり、校外で学んだことを共有したりする機会を設けることで、教員が一体となってICTの有効活用について考え、実践することができた。3年国語科「食べもののひみつを教えます」の単元では、文章の「中」の部分に書く内容を決める際に、ロイロノートを使って食べ物の変身の過程を整理した。簡単に加筆・修正ができるため、その後の下書き作業をスムーズに行うことができた。また、清書の作成を「原稿用紙への手書き」か「タブレットでの入力」のどちらか自分に合った方法を選択させることで、書字に抵抗がある児童でも意欲的に取り組むことができた。



ロイロノートで書く順番を整理

5. 児童どうしのかかわりや学び合いが生まれるカリキュラムデザイン

2年国語科「みきのたからもの」の単元では、「1年生にお話のあらすじを紹介しよう」というゴールを設定し、言語活動を展開した。これまでの学習では、書いたものを学級の友達に紹介するという活動が比較的多かった。今回は、「1年生に紹介する」というめあてをもったことで、単元前半のあらすじをまとめる段階から、相手意識を明確にし、学習のゴールを目指すことができた。「1年生に分かりやすく伝えるためには、どう書くといいかな。」「自分のすきなところとそのわけを入れようかな。」など、1年生の姿を思い浮かべながら紹介文を考えることができた。「1年生に分かりやすく伝えられてよかった。」とか、「お話の好きなところを1年生に分かってもらえてうれしかった。」といった感想をもつ児童がいた。また、1年生も来年度の学習に対する見通しをもつことができた。



2年生から1年生へ お話の紹介

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	創造的な学びづくり 児童が主体となる学校生活 健やかな心と体づくり	総合 評価	A	
重点項目 について	昨年度は、児童が主体性を発揮しながら互いにに関わり、絆をさらに深められるような活動の実践を進めることができたが、縦割り活動やペア学年での交流に課題が見られた。今年度は、児童の主体的な活動を継続しながら、異学年で関わる機会を計画的に取り入れ、日頃から共感的な人間関係を築くことができるようにしていく。また、それらを実現するための土台となる、健康な心と体、どの子も居場所がある安全・安心な教室、学校づくりにも取り組んでいく。			
目標指標 の 達成状況 (児童アンケート)	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【69%】	評価	A	
	②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【80%】		A	
	③「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【64%】		A	
	④「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童が60%以上 →【68%】		A	
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. 主体的に考え、自ら判断・決定し、すすんで活動する ・さまざまな活動の中で、自己決定の機会を設定し、PDCAサイクルを活用できる工夫をおこなうことができたか。 →【肯定的回答100%】	評価	A	
	2. 伝え合って理解し、多様性を認め合う ・学校行事や人権教育、ポジティブ教育、ピア・サポート活動を通して、友達や他学年とのよりよい関係づくりをおこなうことができたか。 →【肯定的回答100%】		A	
	3. 試行錯誤しながら、共に学ぶ過程を大切にする ・仲間と協働しながら目標に向かう児童の学びの姿やその過程を積極的に評価することかできたか。 →【肯定的回答100%】		A	
	4. やさしさでつくる安全・安心な学校 ・安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれらを解決しようと問題提起できる機会をつくることができたか。 →【肯定的回100%】		A	
	・「チーム担任制」を生かし、多くの教職員の目で子どもたちを見ることができたか。 →【肯定的回答100%】		A	
	5. たてわり班活動や異学年交流学習でのかかわりづくり ・行事、学習活動に縦割り班を生かし、異学年交流、縦のつながりを深められる機会を設けることができたか。 →【肯定的回答100%】		A	
	・定期的に「なかよしタイム」をおこない、縦のつながりを深められるようにすることができたか。 →【肯定的回答100%】		A	
	6. 自らつくる健康な体、健康な生活 ・家庭と連携し、児童自らが自己の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなうことができたか。 →【肯定的回答100%】		A	
総括	すべての数値が目標値を上回り、特に学校全体では①②の数値が昨年度末よりも上がった。これらの結果から、児童は「学校生活」や「みんなとの関わり」に対し、楽しさを感じていることが分かった。その要因としては、自分達で考え実行し、振り返りを行い、さらによりよい活動を実行していくという活動が定着し、様々な場面で主体的に取り組むことができた成果であると考え。 また、昨年度よりも異学年交流（縦割り遊び）が計画的に行われ、学年を解いたふれあいの時間も増やすことができた。さらに、教員も「チーム担任制」を生かして、連携を図りながら様々な活動に取り組んだ。子ども達が主体的な活動ができるよう、あたたかなまなざしで見守ったことも要因の一つと考える。			
改善策	①②に関して、「どちらかという…」の児童を把握し、それらの児童が自分の考えをもって、様々な学校生活の場面で参画できるような場を作ったり、振り返りをフィードバックしたりして、次につながるよう支援していく。 「安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれらを解決しようと問題提起できる機会をつくることができたか。」については、「できた」との回答が60%であった。委員会や歯磨き名人などで実践してきたが、今後も教員の適切な指導のもと、さらに児童の思いを反映させた学校づくりに取り組んでいく。			

目標を達成するための具体的方策実践例

1. 主体的に考え、自ら判断・決定し、すすんで活動する

3. 試行錯誤しながら、共に学ぶ過程を大切にする

「によきによき宮崎っ子プロジェクト」では、各委員会がよりよい学校づくりのためにPDCAサイクルを活用しながら活動を進めてきた。プロジェクトを始動して3年目となる今年度は、課題に目を向けること、活動後の振り返りを行うことを児童に意識させ、児童が主体的に考え、自己決定できるよう取り組んだ。例えば、ハッピーランチ委員会では、「全員が完食できるかっこいい学校」を目標に活動し、台車体験を実施した。しかし、振り返りにおいて「全員完食」の目標につながる取組になっていなかったことに気付き、2学期には、残食を減らす工夫として、「給食ビンゴラリー」を計画した。活動の参加賞に、おかわり優先券やデザート優先券を渡すことにも取り組んだ。目標を始めに共有し、活動後に振り返る時間を十分に取ったことで、よりよい方法は何か話し合う姿が見られた。



給食ビンゴラリー



児童玄関前の掲示

また、各委員会の取組を児童玄関前に掲示することで、低・中学年の「によきプロ」への参加意欲を高め、学校全体でよりよい学校にしていこうという姿が見られた。

2. 伝え合って理解し合い、多様性を認め合う

5. たてわり班活動や異学年交流学习でのかかわりづくり

今年度は、チーム担任制を導入し、低・中・高学年部で交流を深めてきた。体育大会や合唱練習・陸上練習では、5・6年生が合同練習を行い、教え合うことでレベルを高めていくことができた。その後、ピア・サポート活動を通して感謝を伝え合い、よりよい関係づくりを行った。他にも各学年部で、遠足の際に異学年の班で活動したり、学習の成果を発表し合ったりした。また、チーム担任制にしたことで、授業後、お互いの学級の児童について情報交換するなど、担任同士の交流も増えた。チームで児童を見守り支援したことは、教員・児童にとって効果的であった。



なかよしタイム
6年生が考えた遊びで
異学年交流

縦割り班活動では、「なかよしタイム」を6年生が計画的に企画し、昨年度より多く実行することができた。低学年にも配慮した遊びやルールの中で、かかわりを深めた。

4. やさしさでつくる安全・安心な学校

昨年度の防災授業後の保護者アンケートでは、「これからも定期的に防災について考える時間をつくってもらいたい」という意見が多くあった。今年度は、さらに防災に関する知識や関心を高めるために、学校公開日に合わせて、PTA 健康安全委員、越前町役場の防災安全課や防災士にもご協力いただき、「防災学習」を企画した。さまざまなブースを作り、避難生活で使用するテントやトイレ、応急担架作成などを体験できるようにした。また、6年生は普段から「防災に関して自分たちにできることは何か」について学習してきた。そこで、6年生担当のブースも作り、段ボール椅子や新聞紙スリッパの作成、様々な災害に対応するためのクイズを企画した。参加者にとって普段からできる備えが分かるよう工夫した。学校と家庭・地域が連携し、防災学習ができたことに大きな価値があった。



学校と家庭・地域が連携した
防災学習

6. 自らつくる健康な体、健康な生活

「歯みがき名人」を目指し、歯と口の健康について考え、正しい歯みがき方とその大切さについて啓発していく児童を募集したところ、6名の児童が自ら希望した。自分の歯みがきの様子を振り返ったり、みがき方のコツを考えたりし、給食時のハッピータイムでそれらを全校児童に伝えることで、ていねいな歯みがきを呼びかけた。放送から流れるハッピータイムの曲に合わせて、しっかりと歯みがきをする児童が多く見られ、全校児童への歯みがきに対する意識づけができた。2学期にはハッピータイムを継続するとともに、歯みがきの大切さについての動画を作成したり、動画を全校児童に知らせたりすることで、歯みがきに対する意識の継続を図ることができた。



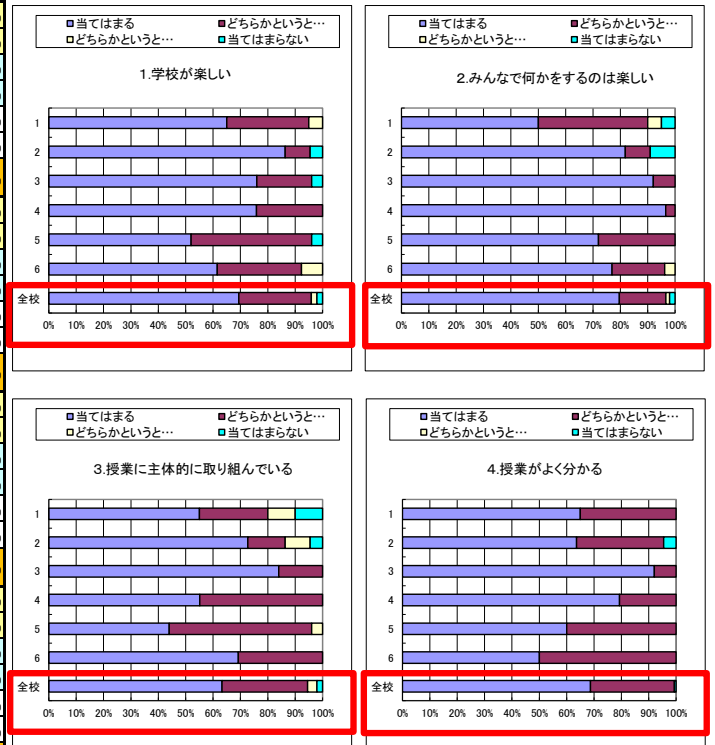
ハッピータイム
曲に合わせて歯みがき中

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	成長を支える環境づくり 共に歩む教職員集団 家庭・地域との連携・協働	総合 評価	A
重点項目 について	<p>本校には若手からベテランまでバランスよく在籍している。各自が個性や強みを発揮するとともに、協働して教育活動に臨むことにより、より大きな成果を得ることが期待できる。</p> <p>本校保護者は学校教育にとっても協力的であり、地域には、特色ある自然・歴史・産業等の保持・発展に努める方々がいる。このような保護者や地域の方と連携・協働することにより、社会に開かれた教育課程や家庭・地域とともにある学校をめざしたい。</p>		
目標指標 の 達成状況 (教員アンケート)	<p>⑤「仕事に喜びや楽しさを感じている？」に「当てはまる」と答える教職員が60%以上 →【83%】</p> <p>⑥「家庭・地域とつながっている？」に「当てはまる」と答える教職員が60%以上 →【83%】</p>	評価	A A
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	<p>1. 心身ともに健康で、主体的に学び協働する</p> <p>・時間外勤務45時間以下、年休取得11日以上となるよう、自分で働き方を調整することができたか。 →【肯定的回答82%】</p> <p>・目標を決めて主体的に研究や業務に取り組み、実践の経過や結果を共有することにより、学びを深めることができたか。 →【肯定的回答100%】</p> <p>2. チーム担任制や組織的な支援で、安心して働ける「チーム宮小」</p> <p>・チーム学年で助け合い、学び合うことができたか。 →【肯定的回答100%】</p> <p>・情報を共有し、問題には組織的に対応することができたか。 →【肯定的回答100%】</p> <p>3. 新たな発想とチャレンジで、働くことを楽しむ</p> <p>・前例にとらわれず、主体的に目標を設定して実践することができたか。 →【肯定的回答91%】</p> <p>4. 願いや思い・課題を共有し、評価・改善する</p> <p>・家庭・地域の思いや課題を把握した上で計画・実践し、評価・改善することができたか。 →【肯定的回答100%】</p> <p>5. 地域の資源を生かした学びを共につくる</p> <p>・地域の資源を生かした授業を共に計画・実践することで、ふるさと学習のカリキュラムを充実させることができたか。 →【肯定的回答88%】</p> <p>6. 15年間の学びを見通した保小中連携</p> <p>・15年間の成長を念頭に置き、保小・小中の円滑な接続と連携に努めることができたか。 →【肯定的回答100%】</p>	評価	B A A A A B A
総括	<p>⑤「仕事に喜びや楽しさを感じる」の結果は、中間評価時より大きく改善することができた。これは、チーム担任制を取り入れたことにより、多忙な職務の中においても、各々の分掌について情報を共有したり、問題解決について組織的に支援し合ったりすることで、達成感ややりがいを感じることもできたものと思われる。また、個々の働き方についても、自分で勤務時間を調整する体制が整ってきた。</p> <p>⑥「家庭・地域とつながる」の結果も、中間評価時より改善することができた。これは、自然環境・農業・伝統工業・防災等に関する学習に、地域の方や保護者の協力を得て、大きな成果を得ることができたためと思われる。</p>		
改善策	<p>⑤「仕事に喜びや楽しさを感じる」に関しては、今後もチーム担任制を取り入れ、チーム学年で助け合ったり、学び合ったりする体制を推進していく。また、働き方改革の更なる推進によって超過勤務時間のさらなる短縮を図り、ライフワークバランスの最適化を目指す。</p> <p>⑥「家庭・地域とつながる」に関しては、今年度、保護者及び地域の方が、とても協力的で理解があるということを確認することができた。今後は、協力していただいた方とのネットワークの維持・発展を図ると共に、協力していただく学習活動の内容の精選・深化が必須である。</p>		

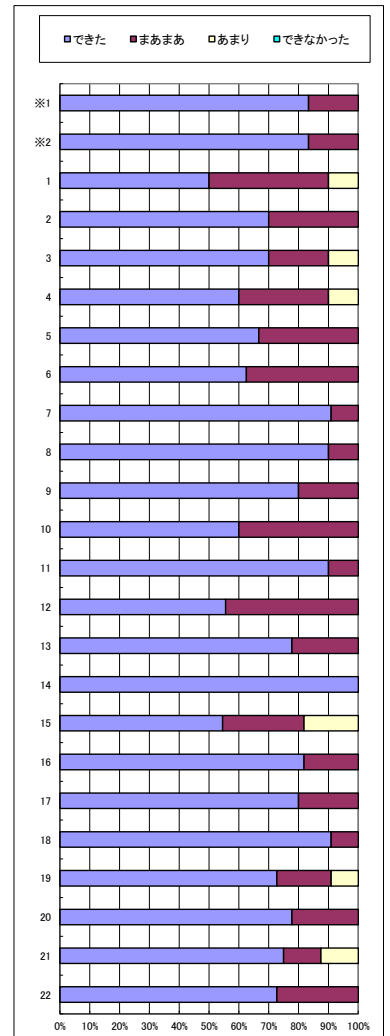
令和7年度 2学期 アンケート結果(児童対象・11月実施)

質問内容	学年	人数			%				肯定的回答	
		当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない	学年	当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない		
1 学校が楽しい。	1	13	6	1	0	65%	30%	5%	0%	95%
	2	19	2	0	1	86%	9%	0%	5%	95%
	3	19	5	0	1	76%	20%	0%	4%	96%
	4	22	7	0	0	76%	24%	0%	0%	100%
	5	13	11	0	1	52%	44%	0%	4%	96%
	6	16	8	2	0	62%	31%	8%	0%	92%
	全校	102	39	3	3	69%	27%	2%	2%	96%
2 みんなで何かをするのは楽しい。	1	10	8	1	1	50%	40%	5%	5%	90%
	2	18	2	0	2	82%	9%	0%	9%	100%
	3	23	2	0	0	92%	8%	0%	0%	100%
	4	28	1	0	0	97%	3%	0%	0%	100%
	5	18	7	0	0	72%	28%	0%	0%	100%
	6	20	5	1	0	77%	19%	4%	0%	96%
	全校	117	25	2	3	80%	17%	1%	2%	97%
3 授業に主体的に取り組んでいる。	1	11	5	2	2	55%	25%	10%	10%	80%
	2	16	3	2	1	73%	14%	9%	5%	86%
	3	21	4	0	0	84%	16%	0%	0%	100%
	4	16	13	0	0	55%	45%	0%	0%	100%
	5	11	13	1	0	44%	52%	4%	0%	96%
	6	18	8	0	0	69%	31%	0%	0%	100%
	全校	93	46	5	3	63%	31%	3%	2%	95%
4 授業がよく分かる。	1	13	7	0	0	65%	35%	0%	0%	100%
	2	14	7	0	1	64%	32%	0%	5%	95%
	3	23	2	0	0	92%	8%	0%	0%	100%
	4	23	6	0	0	79%	21%	0%	0%	100%
	5	15	10	0	0	60%	40%	0%	0%	100%
	6	13	13	0	0	50%	50%	0%	0%	100%
	全校	101	45	0	1	69%	31%	0%	1%	99%



令和7年度 2学期 アンケート結果(教員対象・11月実施)

質問内容	人数			%				肯定的回答		
	できた	どちらかという	できなかった	できた	どちらかという	できなかった				
※1 ・仕事に喜びや楽しさを感じている?	10	2	0	0	83%	17%	0%	0%	100%	
※2 ・家庭・地域とつながっている?	10	2	0	0	83%	17%	0%	0%	100%	
主体的な学びづくり	1 ・教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりをおこなうことができたか。	5	4	1	0	50%	40%	10%	0%	90%
	2 ・子どもと共に創り上げる課題設定や単元づくりをおこなうことができたか。	7	3	0	0	70%	30%	0%	0%	100%
	3 ・授業や単元全体を通して、学びを確かめたり深めたりする振り返りの時間を設けることができたか。	7	2	1	0	70%	20%	10%	0%	90%
	4 ・教科の特性や目的に応じ、育てたい資質・能力が明確なICT活用をおこなうことができたか。	6	3	1	0	60%	30%	10%	0%	90%
	5 ・「つけたい力(資質・能力)」を明確にして各教科領域等をつなぎ、ふるさどについて探究的に学ぶふりかきゅうデザインをおこなうことができたか。	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%	100%
	6 ・異学年で学び合ったり、学習したことを他学年に伝えたりする機会を設け、学びを広げることができたか。	5	3	0	0	63%	38%	0%	0%	100%
創造的な学びづくり	7 ・さまざまな活動の中で、自己決定の機会を設定し、PDCAサイクルを活用できる工夫をおこなうことができたか。	10	1	0	0	91%	9%	0%	0%	100%
	8 ・学校行事や人権教育、ポジティブ教育、ピア・サポート活動を通して、友達や他学年とのよりよい関係づくりをおこなうことができたか。	9	1	0	0	90%	10%	0%	0%	100%
	9 ・仲間と協働しながら目標に向かう児童の学びの姿やその過程を積極的に評価することができたか。	8	2	0	0	80%	20%	0%	0%	100%
	10 ・安全・安心な学校をつくるため、児童自らが課題を見つけそれらを解決しようとする問題提起できる機会をおこなうことができたか。	6	4	0	0	60%	40%	0%	0%	100%
	11 ・「チーム担任制」を生かし、多くの教職員の目で子どもたちを見ることができたか。	9	1	0	0	90%	10%	0%	0%	100%
	12 ・行事、学習活動に縦割り班を生かし、異学年交流、縦のつながりを深められる機会を設けることができたか。	5	4	0	0	56%	44%	0%	0%	100%
	13 ・定期的に「なかよしタイム」をおこない、縦のつながりを深められるようにすることができたか。	7	2	0	0	78%	22%	0%	0%	100%
	14 ・家庭と連携し、児童自らが自己の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなうことができたか。	9	0	0	0	100%	0%	0%	0%	100%
成長を支える環境づくり	15 ・時間が勤務45時間以下、年休取得11日以上となるよう、自分で働き方を調整することができたか。	6	3	2	0	55%	27%	18%	0%	82%
	16 ・目標を決めて主体的に研究や業務に取り組み、実践の経過や結果を共有することにより、学びを深めることができたか。	9	2	0	0	82%	18%	0%	0%	100%
	17 ・チーム学年で助け合い、学び合うことができたか。	8	2	0	0	80%	20%	0%	0%	100%
	18 ・情報を共有し、問題には組織的に対応することができたか。	10	1	0	0	91%	9%	0%	0%	100%
	19 ・前例にとらわれず、主体的に目標を設定して実践することができたか。	8	2	1	0	73%	18%	9%	0%	91%
	20 ・家庭・地域の思いや課題を把握した上で計画・実践し、評価・改善することができたか。	7	2	0	0	78%	22%	0%	0%	100%
	21 ・地域の資源を生かした授業を共に計画・実践することで、ふるさと学習のカリキュラムを充実させることができたか。	6	1	1	0	75%	13%	13%	0%	88%
	22 ・15年間の成長を念頭に置き、保小・小中の円滑な接続と連携に努めることができたか。	8	3	0	0	73%	27%	0%	0%	100%



令和7年度学校関係者評価書

宮崎小学校

<p>主体的・対話的で深い学びをめざし「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実</p> <p>カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善</p>	<p>主体的な学びづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題をもとに各先生方が、何を大切に授業に取り組んでいるか具体的な様子が伺え、授業力向上につながっていると感じた。「研究のまとめ」の共有の場でも相互フォローやフィードバックがしやすい環境が整っていたように感じる。また、児童の姿を具体的にイメージして指導案を作成して下さったことから、授業者の思いだけでなく、子どもたちと丁寧に向き合っていたということが伝わり、保護者として大変ありがたく思う。 教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりについては肯定的な回答が90%である一方、否定的な回答も10%あったため、B評価と厳しく評価をしているが、改善点が明確になったと前向きに捉え、来年度の取り組みに生かしてほしい。 ふるさと学習では年度初めにカリキュラムを作り上げていったとのことだが、授業者のねらいと地域コーディネーターの思いをすり合わせる作業は苦労もあったかと思う。しかし、体験型授業は指導を受けてモノづくりをするという普段体験できない貴重な授業なので、今後も継続して取り組んでほしい。 ICTの活用は、社会のデジタル化がますます進む中で今後必要となる基礎的な能力だと考えられる。その中で、いち早く授業に取り入れて活用している点は高く評価できる。一方で、低学年の児童に対しては荷物の重さなど、一定の課題や懸念もある。今後も試行錯誤を重ねながら、児童が意欲的に取り組める環境づくりを進めていただきたい。 「児童同士のかかわりや学び合いが生まれるカリキュラムデザイン」では、異学年の児童に自分の考えを伝えるために、相手を意識しながら順序立てて説明する力が育まれると考えられる。従来の同学級内での紹介にとどまらず、一段高い取り組みに挑戦し、肯定的回答が100%と目標を大きく達成できた点は素晴らしい結果だった。
<p>創造的な学びづくり</p>	<p>児童が主体となる学校生活</p> <p>健やかな心と体づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会活動を通して、PDCAサイクルを活用し、問題解決力や課題達成力を育てる取組は素晴らしいと感じる。ハッピーランチ委員会でも、計画・実行・評価を通して課題を明確にし、改善策を実行できており、児童にその力が着実に身につけていることが伺える。 主体的に考え判断・決定することについて委員会活動において継続的に取り組んで成果を上げていることで、児童の学校をよくしていこうという思いが高まっているように感じる。以上の活動が中学校での主体性にもつながっていくので今後も継続していただきたい。 チーム担任制の導入とたて割り班活動が上手く機能し、教員・児童どちらにとっても効果的であったように伺える。今後もより良い関係づくりの為に継続してほしい。 たて割り班活動は、幅広い児童同士のかかわりを通して授業への関心を高め、楽しく深い学びを生み出すとともに、助け合いの精神を育むものと思われる。また、教員同士の交流も促されます。少子化や教員不足が懸念される中、こうした異学年交流の取組はその対応策としても重要な役割を果たすと考える。 天災が頻発・重大化する中で、防災授業を家庭や地域と連携して継続的に進めている点は大変素晴らしい取組である。学校だけでなく家庭や地域を巻き込み、関係人口を増やすことで大きな効果のある授業になったと思う。体験型の学習を通して災害をより現実的に捉え、家庭でも対応を考えるきっかけとなるなど、大きな効果が生まれている。来年度以降もぜひ継続して取り組んでいただきたい。 歯みがき名人をテーマとした啓発活動に児童が自発的に取り組んだことで、目的を設定し、自分の歯みがきの仕方を振り返りながら手段を整理する姿が見られた。これらの過程を通して、論理的に考える力の育成につながる活動となったと思う。

<p>成長を 支える 環境 づくり</p>	<p>共に歩む教 職員集団</p> <p>家庭・地域 との連携・ 協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事に喜びや楽しさを感じる」という質問に肯定的回答が100%ということが素晴らしい。「チーム担任制」という取組だけでなく、宮崎小学校全体の学校風土がそうさせていると感じる。 ・宮崎小学校の職場環境が働き方においても、人間関係においてもすこぶる健全だと思う。「チーム担任制」を導入したことで、より些細なことから大きな問題まで話し合うことを大切にし、相談し、支え合える風通しの良い職場になった。 ・先生方は、自分のどの仕事においても一生懸命取り組むがゆえに、多くの時間を費やすことになり知らず知らずの間に時間外勤務が増えることがある。仕事にも優先順位をつけたり、チームでカバーしあったりして少しでも心にゆとりをもって仕事にあたっていただきたい。 ・授業で導入しているICTを有効活用し、DX化を進め校務の負担軽減を図る働き方改革を進めてほしい。難しい課題ではあるが、校務を簡略化させることで時間外勤務を減らしプライベートの時間もしっかり確保できるように働き方改革を推進していただきたい。
	<p>その他 学校教育 全般</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎小学校全体の取り組んでいる内容のレベルが高い中、特色ある活動が多いので、児童が授業に後ろ向きにならず、楽しく取り組んでいると感じられる。 ・すべての項目を全国平均よりも高い60%という目標を掲げ、達成できたことは素晴らしい。高い意欲をもって校務に取り組んでいただけていると思うが、教員一人ひとりの姿勢が、学校風土による影響を与え、児童にも前向きな良い影響を与えていると思うので、大変ありがたく思う。 ・日々、多忙な中で子供たちのためにご尽力いただいている教職員の皆様には感謝している。 ・宮崎小学校教職員はじめ、保護者の方々、地域の人たちのあたたかく、優しい気持ちが児童に安心感を与え、やる気を引き出している。 ・ここ数年自然公園が手つかずになっているかと思うが、野生動物が増えていることが予想されるので、獣害が発生する前に整備を進めてほしい。また、可能であれば以前のように活用も検討をお願いしたい。